

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議室や事務所、玄関に掲示し、スタッフや外来者の目に付くようにしている。ホーム会議の中で確認することもある。	理念、コンセプトについて利用契約時に本人、家族に説明している。月1回のホーム会議で唱和し、理念に沿ったケアの実践について話し合いも行っている。尊厳を忘れないように気づいた時には「立ち止まって」考える時間を取るよう心掛け、1・2階のスタッフを入れ替え、新鮮な気持ちで取り組むようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回して頂き、地区の行事などの動きを理解できている。童謡唱歌を歌う会には毎回参加させて頂きスタッフも含め交流を図っている。今年度は職場体験の中学生を受け入れた。	区費を納め回覧板も回していただき区の一員として交流している。区社協主催の「ミニサロン」には毎回6～7名の利用者が参加し童謡・唱歌を歌い楽しんでいる。区長が民生委員を兼ねていることから日々の繋がりもあり敬老会の記念品を届けていただいたりしている。更に中学生の職場体験の受け入れも行っている。「ぐるーぷほーむ通信」を区長と地区消防団に届け理解を深めていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『認知症の基本知識とニチイの認知症ケア』の資料を活用し、外来者やご家族に向け理解を促している。地区の行事に参加させて頂いた折や散歩などの外出時、スタッフの対応を見て理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表(全ご家族に通知は送付)、地域・行政の担当者へ出席頂き定期的に開催している。意見や提案を受け、サービス向上に活かしている。読み聞かせを勧められ、ニチイ祭りにて朗読劇を行った。	家族、区長、区消防団員、広域連合職員、市高齢者福祉課職員、介護相談員などがメンバーで、全ての家族に開催案内を出している。報告事項の他、事故事例の紹介も行われ改善策について活発な意見交換が行われ、ホームをより良くしていくための会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に担当者の出席をお願いしている。市の相談員制度を利用し月1回訪問を受けることで、お客様の要望や意見を汲み取ることに役立っている。認定調査の折には適宜家族に代わって状況の説明を行っている。	広域連合の職員にホームの運営やスタッフの状況等を相談し意思の疎通を図っている。介護相談員も月1回来訪し、利用者の意見を汲み取っている。介護認定調査は調査員が来訪しホームで行われ、利用者の状況やケアの取り組みを伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年の研修計画の中に組み込んで実践している。身体拘束をしないケアに努めるとともに、緊急やむをえない場合の3要件についてもその内容を研修している。	玄関は平日開錠し、土日は来訪者が多いことと安全確保のため施錠している。虐待や身体拘束の研修会は年1回必ず行い拘束をしないケアに努めている。相手の立場に立ったケアをすることを基本としており、自分が嫌な事はしないよう徹底している。夜間は寝具に「鈴」を付け安全確保に取り組んでいる。	

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修計画の中に組み込んで実践している。虐待と思われる内容をスタッフ個々に書き出してもらい、まとめたものを張り出して目に付くようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止の研修にあわせて内容の把握を行っている。その必要性からの具体的な支援は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必要な説明を行い、理解の上で署名、捺印を頂いている。改定時も同様。(遠方のご家族には郵送し、文書を添えその部分を示している。)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様には日頃、聞き取る姿勢を持って接している。ご家族には年1回自社の顧客満足度調査において意見を頂いている。ニチイ祭りや運営推進会議に来訪を呼びかけ、日頃の面会時とあわせて意見を聞き取る機会を設け反映に努めている。	運営推進会議の案内を毎回家族に出し出席を働きかけ数名ずつ参加していただいている。様々な意見や要望を頂き運営に役立てている。家族の来訪は週1回～2ヶ月に1回位であるが、毎月手紙と電話にて状況をお知らせし、更に「ぐるーぷほーむ通信」を郵送している。ニチイ祭の折には職員の出し物やビンゴゲーム等を行い、地域の方も交え利用者、家族共に楽しんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議やお客様の状態に合わせたカンファレンスの開催において、スタッフの意見の集約を図っている。お客様担当を決め、その方に応じた対応を発信してもらっている。	月1回のホーム会議には全員出席情報共有をしている。管理者の方針の下、4に分けて行い全員が出席できるようにしている。日々の仕事の進め方について細かなことでも意見を述べ、アイデアを出し合い、良いと思ったことはとにかくやってみようとしている。目標管理制度があり随時管理者が面談し職員のキャリアアップを図り人事考課制度に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年6月に給与体系が一部改定され、常勤者、時給者ともに増額になった。個々の労働時間や条件に関して希望を取り入れ無理のない勤務体制を作るともお客様担当を決めることで責任と意欲の持続を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議において研修を行うとともに、ニチイ学館岡谷支店で行われる研修を紹介。シフトを調整して参加希望に応えている。		

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諏訪広域で行われる研修等に参加し、同業者との交流を図っている。管理者・スタッフともにニチイ学館岡谷支店で開催される研修や会議に適宜参加し意見交換することで質の向上を図る努力をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式の書式にてアセスメントを行い、その方の情報を収集しサービスに活かしている。安心のできる居心地のよい環境づくりを基本に、ありのままを受け入れる姿勢を持ってスタッフは業務に当たっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の書式によりアセスメントを行っている。ご家族の思いを受け止め、要望に沿った計画書の作成を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの支援の方法を理解していただくとともに、その方にあったサービスなのか、金額的負担も含めて確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはできないことをお手伝いさせていただいているとの認識を持って、その見極めをした上で支援することを徹底している。家事全般や行事のための飾り付けなど参加をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調や日頃の変化など必要時には連絡をしている。お客様の希望や不穏時など電話での対応をお願いし、家族の協力は不可欠であることを理解して頂いている。徐々に面会が減っていくのも現実としてある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前からのお付き合いが継続できるように、手紙など頂いたときには電話でお礼を伝えている。対応が可能であれば、本人にも電話口に出てもらっている。徐々に家族以外の付き合いは疎遠になってきている。	友人、知人、以前の勤務先の元部下の方などの来訪がある。お茶をお出しし居室にて寛いでいただいている。電話や手紙についてお互いにしたり返したりして楽しまれている利用者もいる。馴染みの美容院や墓参りに家族と出掛ける方もいる。利用者同士お花見の時期には全員2階に集り、近くの川の堤防の桜を楽しんでいる。	

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽度で活発に動かれる方とほとんど介助の方とはっきり別れるが、相互の理解を深められるように食事の席を混ぜ、スタッフが間に入って支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後必要がなければ連絡を取り合うことはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で気持ちを伝えることができない方や表現できない方もいるが、スタッフはその表情やしぐさで気持ちを察し、汲み取る努力をしている。何事にも説明と同意を得ることを統一している。	利用者全員が表情や仕草を含めて意思表示が出来る。ホームとしてこの部分には特に力を入れて取り組んでいる。利用者の目を見て、手を握り、体を寄せ合い、思いを考え、自然に優しく話し掛けるよう心掛けている。介護日誌には小さなことでも記録として残し情報を共有しながらケアの向上に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の書式を活用し、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様ごとの介護記録により、日々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの内容を基に、担当者会議を開催。ご家族には面会時や電話などで要望を聞き取り計画書の作成を行っている。状況に応じて計画書の内容を変更するように努めている。	各職員は1名の利用者を担当している。計画の見直しは変化がなければ1年間、変化があれば随時見直している。管理者やケアマネージャーがモニタリングを行い、介護日誌も参考にし会議を開き、計画の作成を行っている。家族には満足度調査を実施し「日常生活支援シート」にて報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録により情報を共有し、必要な内容を盛り込んだ介護計画書の作成に努めている。		

ニチケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせて、個々にあったサービス提供を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館活動に参加させて頂き、地域交流を楽しむ機会となっている。運営推進会議において、地区の消防団代表にお客様の状況を把握していただく中で有事の際の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設提携医の訪問診療を月2回受けている。〈14名〉個人の主治医の訪問を受けている方もいる。必要時にはいつでも相談に乗って頂き、適切なアドバイスを受けている。	8割の利用者がホームの協力医をかかりつけ医としており月2回の往診を受けている。他の利用者はホーム利用以前からの主治医を継続し家族が受診の対応をしている。また、24時間対応の訪問看護師の来訪が週1回あり、健康管理に配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力を得ている。週1回の訪問時には状況の説明をし、必要な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面での情報提供を心がけている。退院時にはカンファレンスに出席し、退院後の受け入れが可能かも含め支援方法を検討している。医療連携相談室との連絡を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の医療連携加算の説明の際に、施設側の考えをお伝えしている。お客様の状態に変化があった場合は、医療関係機関の協力を得ながら、後の対応をご家族に相談させて頂いている。	利用契約時に重度化した場合についての説明が十分されている。利用者の状態に変化が生じた場合、医師、看護師と連携を取りながら医療行為が発生するまでホームとしてできる介護をチームとして取り組み、その後の対応については家族と相談し、他の病院等を紹介するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の項目として取り組んでいる。有事にはスタッフ二人以上での状況確認、対応を統一している。		

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。スタッフの緊急連絡網を作成し個々に配布。常に連絡が取れるように協力を要請している。地区の消防団にも運営推進会議にてお客様の状況を把握して頂き、有事の際の協力をお願いしている。	年2回、春と秋、区長、地域消防団員の協力を頂き避難訓練を実施している。夜間想定では通報マニュアルに従って職員のなすべきことの確認を行い、日中想定では車いすの利用者を交え利用者全員が実際外へ避難し訓練を実施した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止の研修の中で配慮すべき重要な内容として意識統一を図った。接遇の研修においても言葉遣いや対応について行った。	利用者に対しては人生の先輩として尊敬の気持ちを込めて敬語でお話するようにしている。呼び方は名前に「さん」付けでお呼びしているが、慣れ親しんだ仲になると「ため口」になる時があるので、接遇研修等で認識を新たにし職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様に働きかける際にはどのような状態の方でも意思の確認を行い、言葉だけでは無い表情や仕草でも気持ちを汲むように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など可能な限り幅を持たせ、生活する上での負担の軽減を図っている。余暇の活用にもスタッフ個々に工夫し、その方に合った内容を提案している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方は任せていることが多い。スタッフの支援が必要な方でも、確認をしながら好みのものを用意させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をスタッフが考えているが希望を取り入れられたり、行事、季節に合わせて変化をつけるように心がけている。好き嫌いを考慮し、個別のものを用意することもある。できることには関わって頂き作ることから楽しみを持って頂くようにしている。	全介助の方が数名いるが殆どの方は自力で食事ができる。食形態もミキサー、トロミ対応の方がいるが個々に対応している。献立、調理は職員が行い、利用者も力量に応じてお手伝いに参加し食事の時間を楽しく過ごしている。ひな祭り、誕生日会等、行事については利用者の希望を聞き季節に合った料理を出すようにしている。ホームの畑で野菜を収穫したり、地域の方からの差し入れもあり、献立に役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた形態により安全な食べやすい食事を提供している。水分量は1日1500ccを目安。その方によって食事時間以外でも飲み物や乳製品など摂って頂き確保に努めている。		

ニチケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内を確認。必要時洗浄介助している。就寝前には確実に全員口腔ケアを実施している。入れ歯の方は夜間洗浄剤を使用して衛生管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、声掛けや支援を行っている。立位が困難な方でもスタッフ二人対応にてトイレでの排泄を支援している。夜間を含めてパットを使用されている方がほとんどで、交換頻度も多くなってきている。	自立の方が数名いるが、殆どの方は介助が必要であり、また、リハビリパンツやパットを使用している。排泄チェック表にて情報を共有し、出来るだけ自分で意思表示を行えるように取り組み、トイレでの排泄に繋げている。そのような中、4時間以上排泄がない場合は特に気をつけ声掛けをするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や乳製品の摂取を働きかけているが、動くことが少なく自力で排泄する力も弱くなってきていることから服薬に頼る方がほとんどの状態。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めているが、その日の状態や希望により柔軟に対応している。日頃は入浴剤を使用しているが、季節ごとに菖蒲湯やゆず湯など取り入れている。	基本的には週2回の入浴を行い、希望に沿い3回以上の方もいる。自立の方数名を除いては殆どの利用者が介助が必要である。入浴拒否の方もいるが、時間や日を変えたり、人を変えたりして対応している。入浴剤も好みの物を使い、「ゆず湯」、「菖蒲湯」等、季節の香りも楽しめるよう心掛けている。家族と泊りで温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後やその方の生活パターンにより休息を取り入れている。就寝時には室温や湿度に配慮するとともに、週1回以上敷布類の洗濯をして清潔な気持ちよい状態を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師に指導を受けている。処方箋をお客様ごとに管理し、必要時に内容の確認ができるようになっている。変更時には管理日誌に記録し周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ捨てや新聞とりなど個々の役割を持って取り組まれる方もいるが、日常の中でできることに取り組んで頂くようにしている。行事やお楽しみ会を月1回は設けるようにし、準備段階からの参加をお願いしている。		

ニチイケアセンター四賀・霧が峰ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゴミ捨てや新聞とりなど個々の役割を持って取り組まれる方もいるが、日常の中でできることに取り組んで頂くようにしている。行事やお楽しみ会を月2回は設けるようにし、準備段階からの参加をお願いしている。	自力歩行の方は数名いるが、車イスを使われている方が半数近くとなり、高齢化と身体機能の低下により外出が難しくなっている。天気の良い日には少人数に分かれホームの回りを散歩したり、近くを流れる川の堤防の桜、水仙等季節のお花見に出掛けている。また、週1回40分間、1・2階合同でのびのび体操や手ぬぐい体操等を行い、お互い行き来している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に預かりしていることを伝え、希望に添って必要品の購入をしている。スタッフの不足やお客様の歩行状態の悪化から買い物に出る機会が持てていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所や各ユニットで電話を使用できるようにしている。知人やご家族から手紙が届いた場合は電話などでその旨連絡できるように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中ほとんどの方がリビングで過ごされるので、そこを中心に季節に応じた飾り付けを行うようにしている。転倒の危険のないようにものの位置に留意し、安全安心な生活空間になるように心がけている。	共用部分の空調は床暖房とエアコンで行われ快適である。日中を過ごすリビングには季節に応じた飾りつけがされており、この時期はお雛様の衝立が置かれていた。整理整頓され掃除も行き届いた空間で利用者が新聞を読んだり、テレビを見たり、笑顔で話をして寛ぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室以外は出入りを自由に行っている。食事の時以外はテーブル席を開放し、落ち着けるところで過ごして頂いている。廊下の所々に椅子を置いて、自由に使っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお任せすることが多いが、動線の安全確保や介助の必要性からスタッフの意向をお伝えし、理解を求める場合もある。	十分な広さが確保された居室は掃除が行き届き綺麗である。大きなクローゼットが設けられ使い勝手の良い造りとなっている。壁には家族の写真、誕生日に職員から送られた手作りの色紙等が飾られている。また、使い慣れた思い思いの物を持ち込み、穏やかに暮らしていることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間トイレに起きて来られる方はトイレ近くの居室を使って頂き、安全の確保に努めている。歩行状態が心配な方は手すりを使うことで安全に移動できるように使用を促している。		